保育構想案

奈良教育大学附属こども園
満3歳児クラス（8月1日現在5名　3月9名）教諭　卜澤由奈

1．活動名　かみなりどんがやってきた

2．子どもの姿と読み取り

☆本園では、満3歳児クラスは誕生日から入園、また入園の40日前から慣らし保育開始となり、通園が始まる。本年度は、4月は1名のみの登園であり、1学期末の7月初旬に登園する子どもが増えてきたところである。

◎6月までに登園し始めた子ども（2名）

・友達や保育者の存在を感じ、自ら保育室の扉を開けたり保護者と離れたりする姿が増えてきた。日によっては離れがたかったり不安そうな表情をしたりしている日もあるが、保育者に気持ちを受け止めてもらったり、自分の要求を伝えたりして気持ちを落ち着け、したいことに取り組む姿がある。友達の存在や好きな遊び、したいことがあることで自ら園生活に向かえるようになってきている。

・登園後の荷物の始末は保護者や保育者に促されて自分でしようとしている。衣服の着脱や排泄などに関しては個人差が大きく、自分でする子どももいれば、保育者に手伝ってもらいながら一緒にしたり、自分ではできないと言ったりしている子もいる。身の回りのことや持ち物の始末の仕方がわかり、自分でできることを喜んだり、できないところを保育者に伝えながらも自分でしようとしたりしている。

・登園してきた際に、「〇〇ちゃん来る？」と尋ねたり、友達を見かけると嬉しそうな表情をして「〇〇ちゃんおはよう」と声を掛けたりしている。遊びの場では、同じ用具を持ってきたり行動を真似たりする姿も多く見られるが、その中で楽しんでいることやイメージしていることはそれぞれ異なっている。また、他児の保護者に対して朝の用意を自分でしている姿やできることを嬉しそうに見せる姿も見られる。同じグループの友達に対して親しみを感じ、同じ場で同じようにすることが心地良いようだ。さらに友達だけでなく、毎日顔を合わせる身近な人へも興味が広がってきている。

・保育者がそばにいなくても、自分のしたいことや面白いと感じることを繰り返し試している。戸外では水を容器に何度も入れたり移したり、やかんからコップへと注ぐことを楽しんだりしている。また砂と水を混ぜ、泡立て器で混ぜたりスプーンで移したりしてごちそうを作りじっくりと遊んでいる。いろいろな用具を使い、自分なりのイメージをもって遊ぶことを楽しんでいる。

◎7月から登園し始めた子ども（3名）

・（B 児）乗り物が好きで、室内でも戸外の水遊びでも車の玩具を使って遊んでいる。視覚情報が強く入るようで、視界に入ったものや気になったことなどに素早く反応し、走って向かう姿がある。そのため遊びの場は転々とするが、したいことや好きな遊びは決まっていて、元いた場所に戻って来ると、していた遊びの続きを繰り返し楽しんだり、目新しいものや気に入った玩具を使って自分なりのイメージを膨らませたりして遊んでいる。したいことや好きな遊びに自分から意欲的に関わり繰り返し遊ぶ中で、イメージしたことを自分なりに表現することを面白がっている。

・（D 児）保護者と離れて過ごすことがわかると、登園時に激しく泣くようになるが、園生活の見通しがもてるようになると落ち着いて過ごしている。保育室の入り口に座って待っていたい、青い車で遊ぶなどの自分で決めた

ことを保育者に受け止めてもらい、やり遂げることで落ち着き、好きな遊びや友達がしていることに興味をもって自分から遊び始めている。環境に慣れるまでに時間はかかるが、自分なりにしたいことや好きな遊びには興味をもって取り組もうとしている。また、具体的に言葉にして伝えるなど、園生活に見通しがもてると落ち着いて過ごせるようだ。

・ままごと遊びでは人形を抱っこしてお世話をしたりごはんを作って振る舞ったり、「抱っこしてあげよ」「先生はこっちの赤ちゃんね」などと言葉で考えや思いを伝えたりしている。生活の中で経験したことを再現したり自分なりのイメージをもってそれを周囲に伝えながら遊んだりすることを楽しんでいる。

・（C 児）他園の一時保育などを頻繁に利用しているとのことで園での生活や保育者と過ごすことに慣れており、初日から自分のしたい遊びに取り組む姿が見られた。数日経つと、遊びだけでなく身の回りのことを自分でしようとしたり、近くにいる友達の名前を呼んだりするなど周りの環境への興味が広がり、自ら関わろうとしている。言葉のやりとりも多く、イメージしたことや考えたことを言葉で伝えている。

3. めざす子どもの姿

・ありのままの自分や考えを認めてもらい、のびのびと表現する子ども

・友達の存在を感じて、関わろうとしながら、ともに園生活を過ごすことを楽しむ子ども

4. 活動のねらい

◯体の部位の名前と場所を知る。（知識および技能の基礎）

◯手や腕で覆ったり、素早く隠したりと自分なりに隠し方を工夫しようとする。（思考力・判断力・表現力の基礎）

◯喜んで歌を歌ったり手遊びをしたりする。（学びに向かう力・人間性等）

5. 評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
① 歌のリズムや言葉の響きを楽しんでいる。 ② 自分の体に興味をもつ。 ③ いろいろな体の部位があることに気付いている。	① 自分なりに隠し方を工夫したり次に隠したい場所をリクエストしたりしている。	① 一緒に活動することを楽しんでいる。 ② 保育者の動きを真似ながら楽しんで活動に参加している。

6. 環境構成

〇活動の設定理由

雷が鳴っていた時に「かみなりどんがやってきた」の手遊びをすると興味をもち、手遊びを真似たり「次は◯◯（を隠して）」とリクエストしたりと意欲的に活動に参加する姿がたくさん見られた。ちょうどＢ児、C 児、D 児が登園し始めた頃だったので、興味をもちやってみようとした姿を大切に捉え、毎日同じように取り組むことで見通しがもてるようにするとともに、楽しい活動ができるというワクワク感をもてるようにしたい。

〇教材について

次は◯◯を隠したいという子どもの声や、自分の手で体の部位を隠そうとする姿を言葉で認めたり驚いた表情をしたりすることで活動を楽しめるようにする。ゆっくりとしたテンポで、手の動きは大きく行うことで、一緒にしてみようとする子どもが真似やすいようにする。

〇展開の工夫

かみなりどんになった保育者が「隠さないととっちゃうぞ」などと言いながら子ども達と触れ合うことで保育者とのやりとりも楽しめるようにする。

7. ESD との関連

〇活動を通して養いたい ESD の視点

・相互性：周りの友達の姿を真似たり、楽しいと感じている時に顔を見合わせて笑ったりする。

・多様性：周りにいろいろな友達や保育者がいる中で、触れ合ったり一緒にしたりすることが楽しい。また、いろいろなことを考えたり感じたりするおもしろさや楽しさを感じる。

・公平性：自分の番も必ず来ることや、平等に考えを認められることがわかり、安心して活動に参加する。

〇活動を通して育てたい ESD の資質・能力の基礎

・進んで参加する態度：自分なりに表現したり、「次は〇〇って言って」などと意欲的に参加しようとしたりする。

・コミュニケーションを行う力：友達の姿を見て笑ったり、真似たりしようとする。

〇ESD で育てたい価値観の基礎

・幸福感の重視：友達や保育者と一緒に活動する楽しさや心地よさを感じる。

〇達成に貢献できる SDGs

・目標16：平和・公正

8. 構想と展開

子どもの活動	保育者の環境構成◇と援助▲
・自分のマークがついた椅子に座る。	◇椅子を丸く置いておくことで、友達や保育者の姿が目に入るようにし、関わったり真似てみたりしやすいようにする。 ▲みんなでする活動をすることを伝えとともに「今日もかみなりどん来るかなあ」などと声を掛けることで、次の活動を楽しみにしながら場の切り替えができるようにする。
・「かみなりどんがやってきた」の手遊びをする。	▲子どもの姿に合わせてゆっくり歌ったり、大きく体を動かしたりして活動に取り組みやすいようにする。
・手や腕を使って隠したり、「次は〇〇隠して！」とリクエストしたりする。	▲意欲的に活動に参加しようとする姿を肯定的に捉え、言葉にして認めたり、子どもの考えや思いに寄り添って隠す場所を採用したりする。
・友達の姿を見て真似てやってみようとしたり、自分も思いついたことを保育者に伝えたりする。	▲子どもから出てきた発想を受け止め認めることで自分の考えや思いを表現する喜びを感じられるようにする。
・おへそや口、目、頭などいろいろな体の部位を隠してかみなりどんから守る。	・保育者がかみなりどんになりきって「とっちゃうぞ」などと言いながら触れ合ったり、「みんな上手に隠してるなあ」と呟いたりすることで遊びがより面白くなるようにする。

【具体的な子どもの姿と保育者の援助】

隠す場所

子どもの姿

保育者の援助

目

手で隠す

腕で隠す

目と一緒に鼻や口、他の部位も隠す

友達の姿見て真似て隠す

新しい考えを具体的に認めたり保育者も真似たりする。

「○○ちゃんと一緒やなあ」と声をかけ、友達との関わりを喜べるようにする。

おしり

椅子とおしりの間に手を入れて隠す

座ってるから大丈夫！と隠さないでいる

「手も一緒に隠れてるなあ」と保育者の考えを言葉にして伝え、よりおもしろさを感じられるようにする。

「もうおしりは椅子で隠れている」という子どもの言葉を肯定的に捉え、笑いながら「ほんまやなあ」と認める。

おなかと足

体を折り曲げてお腹を、足は手で隠す

片手ずつ隠す

「○○ちゃんのおなかは～…隠れてた！」と言いながら優しく触れることで、言葉だけでなく体で感じることができるようにするとともに、触れ合いも楽しめるようにする。

全員の工夫してるところを言葉にして認め、ありのままを受け止めてもらえる喜びを感じられるようにする。